国立大学法人九州工業大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

１　全体評価

九州工業大学は、確固としたもの創り技術を有する志の高い高度技術者の養成を基本的な目標とし、教育・研究の高度化を図り、今後も「知と文化情報発信拠点」であり続けるとともに、「知の源泉」として地域社会の要請に応え、次世代産業の創出・育成に貢献する、個性豊かな工学系大学を目指している。第２期中期目標期間においては、研究と社会貢献を礎として、グローバル・エンジニアを養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、人材育成目標や教育活動に関して産業界からの意見を取り入れるために「産学連携教育審議会」を設置するとともに、「グローバル・コンピテンシー（GCE：Global Competency for Engineer）教育」等の複数の教育プログラムに対して、学修成果を自己評価できるように改善し、学修成果の可視化を行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（戦略的・意欲的な計画の状況）

第２期中期目標期間において、海外教育研究拠点 MSSC（マレーシア・スーパーサテライトキャンパス）の設置によるグローバル人材育成を目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成 26 年度においては、MSSC 内に設置したアクティブ・ラーニング型教室（MILAiS）を利用した「留学生との協働学習」を取り入れて海外派遣プログラムを強化するとともに、MSSC を拠点としてインターンシップ受入先企業を開拓し、合計９社に 22 名の学生を派遣している。

（機能強化に向けた取組状況）

九州工業大学が核となって北九州市立大学、早稲田大学と連携し、「カーエレクトロニクス及びインテリジェントカー・ロボティクスに関する連携大学院コース」の実施、「自動運転・安全運転支援総合研究センター」を新設しているほか、年俸制を 10 名の教授に適用するとともに、クロスアポイントメント制度に関する規程を制定し、平成 27 年４月から１名への適用を決定するなど、機動的な組織運営により迅速な人事給与制度改革を推進している。

２　項目別評価

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 機動的な組織運営によるガバナンス改革

新設した学長直轄の戦略企画室において学長・理事による経営企画会議を運営し、新たな年俸制やクロスアポイントメント制度導入を実現しているほか、学長が議長の第３期中期目標・中期計画検討会議を設置し、「Kyutech ビジョン 2021」を策定するなど、ガバナンス改革を推進している。

○ 産業界の声を取り入れる体制の構築

学外委員として、企業の経営者や人事担当者６名、学内委員として、教育等担当副学長、副研究院長、副研究科長、教育企画室長、学習教育センター長からなる「産学連携教育審議会」を設置し、人材育成目標や教育活動に関して産業界からの意見を取り入れ、改善につなげている。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる （理由）　年度計画の記載５事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

（①自己収入の安定的確保、②経費の抑制）

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 財務分析を活用した予算編成

平成 25 年度決算における管理的経費について、予算別・組織別・内容別・執行時期別に分析・評価を実施することで、費用対効果の観点から節減の余地を洗い出し、リサイクル物品の活用、ウェブ活用による印刷物の削減、研修参加者の厳選等の方針を平成 27 年度学内予算編成作業に反映させている。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる （理由）　年度計画の記載３事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

（①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進）

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 研究の質に係る指標を用いた新たな教育職員評価の試行実施

教育職員評価について、研究の質の指標として論文数及び被引用数を取り入れることを決定するとともに、分野別教員当たり論文数等を活用して分野間の研究業績を公平に比較する手法を提案し、試行実施している。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる （理由）　年度計画の記載２事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

（①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守）

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 研究活動等の不正防止に向けた計画制定と倫理教育の充実

研究活動等の不正防止への取組方針を学長が宣言するとともに、大学として取り組む不正防止計画を制定しているほか、e-learning 教材を用いて、すべての教員と研究員に対して「研究倫理教育」を履修させるとともに、すべての教職員（非常勤職員を含む）に対して「コンプライアンス教育」を履修させ、すべての教職員が履修し理解した旨の誓約書を提出している。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載８事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 25 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 学修成果の可視化のための学修自己評価システムの構築

GCE 教育等の（教職科目等も含む）複数の教育プログラムに対して、学修成果を自己評価できるように改善し、学修成果の可視化を行うとともに、海外派遣の事前・事後教育や報告書等を、担当教員の評価コメントと合わせて記録できる GCE ポートフォリオを開発し、正課外の学修活動を記録し自己評価できる試行版を開発している。

○ 海外派遣プログラムの充実

海外派遣（留学、インターンシップ等）について、初回指導（自己認識テスト）から成果報告までを一連のパッケージとした教育プログラムを開発し、「GCE 教育」の効果を高めるとともに、海外教育研究拠点（MSSC）や海外協定校を活用した海外派遣教育プログラムや海外インターンシップ、国際共同研究をベースにした海外研修を策定・実施し、対前年度比 1.7 倍の約 400 名の学生を派遣している。

○ 組織的な学生支援の展開

新設した「学生総合支援室」に常勤のキャンパス・ソーシャルワーカーを配置し、幅広い事例に専門的に対応するとともに、障害学生支援としてケース会議を開催し、修学や学生生活における支援策を策定しているほか、保健センターではカウンセリングウェブ予約システムを導入して利便性を高めるなど、学生支援の充実を図っている。

○ URA等による研究活動のサポート体制の充実

産学連携推進センターと URA（リサーチ・アドミニストレーター）センターを「産学連携・URA 領域」として統合・強化し、専任教員２名、URA ３名等を配置すると

ともに、評価の高い教育職員や国際共同研究を指向した研究グループ形成を行う教育職員に対し、「リサーチスカラー」を５名配置する等により研究活動を活性化させている。